小学校第六学年 国語 「朗読を工夫しよう」

○ 正答例

一 (1) 3

(2) 朗読の工夫①は、ブドリが不安で苦しんでいると考えているが、工夫②はブドリが未来に希望をもち自分のやることに納得していると考えているから、表現が大きくなりつつある。

朗読の工夫①は、ブドリが不安と向き合っている様子を表そうとしているが、工夫②はブドリが強い決意をもって表そうとしているから。

など

(3)

自分の命をぎせいにする。苦しいことであり、ブドリは実際に何日も考え続けている。だから、ブドリは苦しさを乗りこえるためこの言葉を自分にも言い聞かせたと考えられる。そこで、ひと言ひと言をかみしめるようにゆっくりと朗読する。(百九字)

ブドリは自分の身をぎせいにしても、多くの人たちの未来を守りたいと考えている。何日も考えたのだから、ブドリの中では、もう自分の行動を決めていたと考えられる。だから、きっぱりと力強く、ブドリの決意を表現するように朗読する。(百八字)

など

○ この問題で身につけてほしい力

○ 感じたことや考えたことを朗読を通して表現する力

○ 考え方

一 (1)

- 1 は音読の記号に示されている内容です。
- 2 は、【朗読の工夫】を説明する文章に書かれている部分です。
- 4 は、音読の記号のなかに書きこまれている「○残念そうに」のような表現のためのメモのことです。
- 3 のように、台本に直しす工夫は、ここでは行われていません。

(2)

正答例を二つ示しました。ひとつ目は「ブドリの心情をどう考えるか」という視点でまとめたものです。ふたつ目は「どのように表現を工夫しようとしているか」という視点でまとめたものです。こうした視点から【朗読の工夫】をくらべていきます。

○【朗読の工夫①】に見られるブドリの心情

朗読の工夫①は、ブドリが不安で苦しんでいると考えているが、【朗読の工夫②】に見られるブドリの心情
工夫②はブドリが未来に希望をもち自分のやることに納得していると考えているから、表現が大きくなりつつある。

(3)

朗読は、音読の表現を発展させたものです。
音読……内容や文章の表現をよく理解して、聞く人にも伝わるように読む。

朗読……読んで考えたことや感じたことを、聞く人に伝わるように表現しながら読む。

文章を通して、あなたが考えたり感じたりすることが、朗読をするための大切な第一歩です。

自分で表現の仕方を工夫し、あるいはすぐれた表現の仕方を参考にしながら朗読することで、読み手の思いが聞き手に伝わります。

ここでは、読み取ったブドリの心情を根拠に、あなたがどのように表現するのかを説明します。

○根拠となるブドリの心情

自分の命をぎせいにする。苦しいことであり、ブドリは実際に何日も考え続けている。だから、ブドリは苦しさを乗りこえるため

この言葉を自分にも言い聞かせたと考えられる。そこで、ひと言

ひと言をかみしめるようにゆっくりと朗読する。(百九字)